

令和7年度 指定管理者年度評価シート

1 基本情報

施設名称	大阪市東成区民センター
施設所管課・担当	東成区市民協働課（担当：沼口・三村）
条例上の設置目的	コミュニティ活動の振興並びに地域における文化の向上及び福祉の増進を図るとともに、市民の集会その他各種行事の場を提供することにより市民相互の交流を促進し、もって連帯感あふれるまちづくりの推進に寄与することを目的とする。
業務の概要	(1) コミュニティづくりに関する普及啓発 (2) コミュニティづくりに関する情報の収集及び提供 (3) 市民の集会その他各種行事の場の提供、等
成果指標	各室平均利用率／満足度
数値目標	70.0%以上／92.0%以上
指定管理者名	一般財団法人大阪市コミュニティ協会
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 管理運営の成果・実績

成果指標	各室平均利用率	利用者満足度
数値目標	70.0%	92.0%
年度実績	58.8%	99.7%
達成率	81.6%	106.0%

利用状況

	当年度	前年度	前年度比
利用人数	168,382	156,665	11,717
稼働率	55.8%	54.7%	1.1%

3 収支状況

収入		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
業務代行料	実績	35,732,000	35,808,000	3,305,000	電気及びガス代等エネルギーコストの高騰による補填
	計画	32,427,000	32,427,000		
利用料金収入	実績	23,087,940	24,369,660	-694,060	
	計画	23,782,000	23,749,000		
その他収入 （自主事業収入）	実績	9,100,250	8,031,850	2,929,250	定員を満たす事業の増
	計画	6,171,000	6,171,000		
合計	実績	67,920,190	68,209,510	5,540,190	
	計画	62,380,000	62,347,000		

支出		当年度	前年度	差異（実績－計画）	主な要因
人件費	実績	22,435,885	22,094,027	0	
	計画	22,435,885	22,094,027		
事務費	実績	1,647,339	3,113,049	87,172	
	計画	1,560,167	1,595,909		
施設管理費	実績	15,123,478	15,328,216	-326,022	
	計画	15,449,500	15,414,500		
光熱水費	実績	20,451,731	20,023,043	6,933,731	物価高騰に伴う電気・ガス料金の増
	計画	13,518,000	13,396,500		
一般管理費	実績	3,707,448	3,675,064	0	
	計画	3,707,448	3,675,064		
その他支出 （自主事業支出）	実績	6,097,168	5,578,887	490,368	定員を満たす事業の増
	計画	5,606,800	5,606,800		
合計	実績	49,011,318	49,789,243	251,518	
	計画	48,759,800	48,386,300		

令和7年度 指定管理者年度評価シート

4 管理運営状況の評価（1次評価）

(1) 成果指標の達成

評価項目	達成率	評価	特記事項
各室平均利用率	81.6%	C	利用率は年々上がっているものの、コロナ禍以前のように回復することはなく、成果指標を達成できなかった。しかし、利用促進のためのPRチラシの作成など新たな取り組みを進めていることは一定の評価ができる。
利用者満足度	106.0%	B	

(2) 管理経費の縮減

市費の縮減に係る取組状況	評価	特記事項
物価や光熱水費が高騰している中、購入物品の精査、再生紙の利用や裏紙の利用等、継続されるべき基本的な取り組みは行われているが、新しい取組はなされていない。	B	

(3) 管理運営の履行状況

評価項目	評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営	B	
事業計画の実施状況	B	
施設の有効利用	B	
社会的責任・市の施策との整合性	B	

5 利用者ニーズ・満足度等

意見箱「センターの耳」を施設内に設置している。また来館者を対象にアンケートを年に2回行い、予約手続き・スタッフの対応・清掃状況・設備状況・HPなどについて満足度や自由意見を求め各項目について約330通の回答を得た。結果、利用率の低いアトリエ・調理実習室・スタジオ利用者からのアンケート回答数が昨年度より増加し、利用促進のためのニーズを把握することができた。
--

6 外部専門家意見

・修繕計画の進捗状況について、行政と指定管理者間で密に連携をとる仕組みを構築すること。

7 最終評価

評価項目	評価	所見
成果指標の達成	B	・利用率が低い調理実習室・スタジオ・アトリエについては利用方法が分かるチラシ作成などで積極的に集客し、その結果利用率が伸びてきている状況である。しかし、コロナ禍以前のように回復することはなく、成果指標を達成できなかった。 ・利用者満足度については、おおむね計画及び本市の定める水準どおりの効果が得られた。
市費の縮減	B	物価や光熱水費が高騰している中、購入物品の精査、再生紙の利用や裏紙の利用等、継続されるべき基本的な取り組みに留まった。
管理運営の履行状況	B	・各室平均利用率について、ホールや会議室は目標を達成しているが、特定の用途に限った活用となる調理実習室・アトリエ・スタジオについては利用率が低くなっている。利用促進のためには、各室ごとの課題や対応策などの検討が必要となる。 ・令和7年度はホールの調光設備改修や屋外階段修繕など大規模な修繕が多く、利用者への影響が比較的小さくなるように、日程調整や利用者への周知、電話での利用者への説明などに迅速に対応し、区と綿密に連携を図った。
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営		
事業計画の実施状況		
施設の有効利用		
社会的責任・市の施策との整合性		
総合評価	B	・利用率は徐々に回復傾向にあるものの、引き続き成果指標達成に向け、積極的な利用促進の取り組みを進められたい。 ・施設の建築年数が15年を超え、設備の不具合が表出する時期であるため、不具合状況の把握や区との情報連携、修繕計画の進捗状況の共有を綿密に行い、施設の良好な維持管理に努められたい。